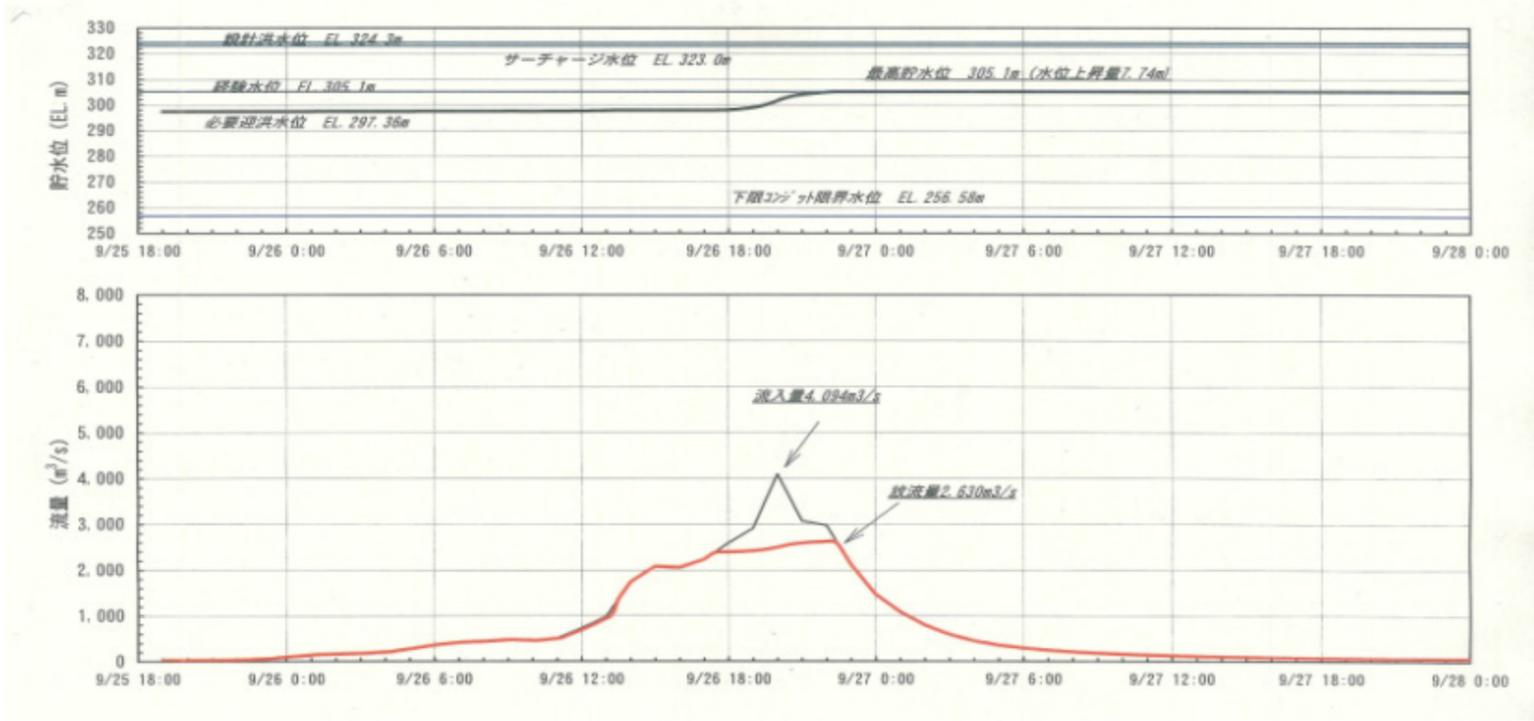
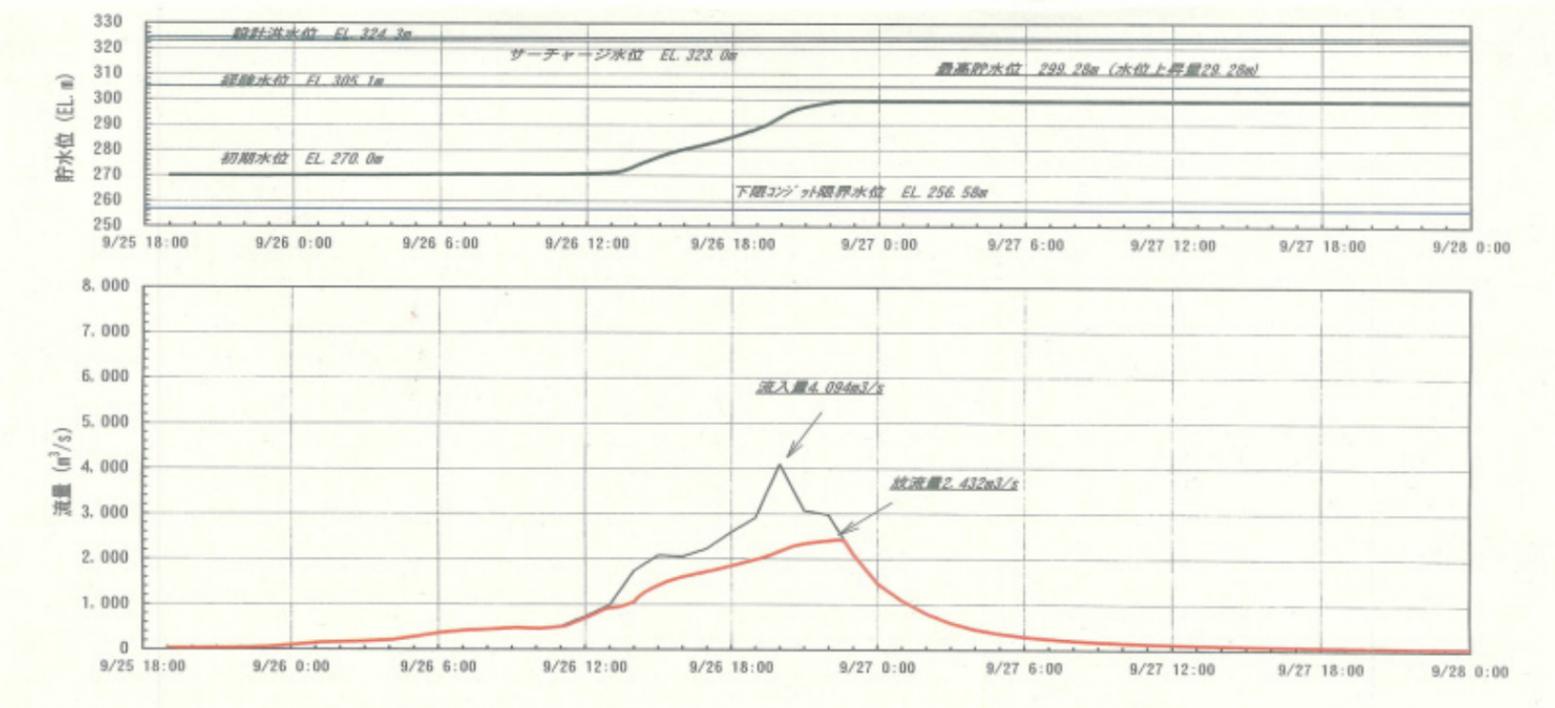


IV. 出水期における対応

事 項	要 点	備 考
1. 貯水位について	<p>(1)管理水位の考え方</p> <p>① 現在の経験水位(305.1m)より上昇しないような水位管理をする。</p> <p>② 洪水の際、下流の安全が確認できるまで、急激な放流を開始しない。</p> <p>③ 過去の最大洪水(昭和34年9月伊勢湾台風)規模の洪水に対しても、上記①、②を満足させるようにする。</p> <p>この管理水位は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当面は、3時間程度遅れから貯留するための容量として現在水位から約4m低い301mとする。 ・ また、それ以後の管理水位は、現在水位より8m低い297mとする。これにより、過去最大洪水(昭和34年9月伊勢湾台風)の場合では、上昇量約7.8mが起こっても、305.1mの現在の水位以下に収まることとなる。これ以降、状況判断し、270m(試験湛水前の水位)まで下げる。 <p>水位の低下量を0.5m/日</p> <p>また、洪水により自然にダム水位が上昇した場合、その貯水位から上記低下速度に制限しながら洪水前の水位まで降下する。</p>  <p>図IV-1.1 大滝ダムにおける洪水処理計算結果(S34.9洪水<実績値ベース>、初期水位:EL297.36m、放流方法:3時間遅れ操作)</p>	

IV. 出水期における対応

事 項	要 点	備 考
	 <p>図IV-1.2 大滝ダムにおける洪水処理計算結果(S34.9洪水<実績値ベース>、初期水位:EL270.0m、放流方法:3時間遅れ操作)</p>	

安全と万全のために。大滝ダムの中核機能

■大滝ダム放流設備の特徴 Characteristic of Outlets

●計画洪水流量5,400m³/sに対して、最大2,700m³/sの洪水調節(ダムへの貯留)および2,700m³/sの放流を行います。

●洪水調節、利水に対する信頼性確保のため、それぞれの放流設備の動力、操作制御設備等は多重化されています。

●放流設備据付工事の施工合理化(工期短縮・コスト削減)を図るため、輸送・据付条件の制限内でできるだけ大ブロックまで工場製作し、現地での施工期間の短縮・工事量の削減に努めています。

●放流設備では、ライフサイクルコスト削減の観点から、ステンレス鋼、ステンレスクラッド鋼(ステンレスと他鋼材を圧着したもの)、構造用鋼(鉄)を適材適所に使用しています。

